

1 広島県教育支援センター「SCHOOL'S」（広島県東広島市）

【調査事項】

広島県教育支援センター「SCHOOL'S」における不登校支援の取組について

【調査目的】

京都府における不登校支援の取組の参考とするため、広島県教育支援センター「SCHOOL'S」における不登校支援の取組について調査する。

【調査内容】

広島県では、令和元年度に個別最適な学び担当課を設置し、その中に、令和3年度に不登校支援センター、令和4年度に不登校支援センターの分室として「SCHOOL'S」を設置した。一斉指導を前提としたカリキュラムだけでなく、子どもの実態に応じた多様な選択肢と自己決定を意識した教育活動を推進するため、個別最適な学び担当課の中に不登校支援センターを位置づけ、県内の公立学校の不登校等児童生徒への学習支援等による不登校の未然防止及び不登校等児童生徒の社会的自立に向けた支援の強化・充実を図っている。

また、令和元年度から、校内に不登校、不登校傾向及び特別な支援が必要な児童生徒への支援を行う校内フリースクールとして、SSR（スペシャルサポートルーム）を設置し、不登校SSR推進校には担当教員を加配措置し、学校全体の教育相談コーディネーターの役割を担うとともに、SSRの担当教員として、SSRに常駐し、支援を行っている。

「SCHOOL'S」がある広島県教育支援センターでは、これまでは来室を主とした支援を行っていたが、認知不足や利用率の低下を背景に、学びの場としての環境づくりを進めるとともに、オンラインでの利用ができる機器を整備した。「SCHOOL'S」開設時のセレモニー実施をはじめ、周知発信にも力を入れ、とりわけ、学校等と十分につながりがもてていない児童生徒に対し、対面とオンラインの両面による社会とつながる場を提供し、個々の状況に応じた学びを進めることを通して、社会的な自立に向けた支援を行っているとのことであった。

【主な質問事項】

- ・SSR及びSCHOOL'Sの利用状況について
- ・SSR及びSCHOOL'Sのスタッフの体制整備について
- ・中学3年生の進路やその後の状況について
- ・いじめを受けた生徒や障害を持っている生徒への寄り添いについて など



調査事項を聴取



施設を視察

2 山口情報芸術センターYCAM（山口県山口市）

【調査事項】

「やまぐち子ども未来型学習プロジェクト」について

【調査目的】

京都府におけるICT教育の取組の参考とするため、「やまぐち子ども未来型学習プロジェクト」について調査する。

【調査内容】

山口市では、メディアテクノロジーを活用した教育普及事業等を実施し、様々な知見やノウハウを持つ山口情報芸術センター（YCAM）と連携し、山口の子どもたちに、ICT機器の操作方法や情報（メディア）リテラシーの習得を働きかけるとともに、情報を分かりやすく発信・伝達する能力やプログラミング的思考、情報モラルなどの情報活用能力を育み、これからの山口を担う人材の育成を目指す「やまぐち子ども未来型学習プロジェクト」に取り組んでいる。

小学校においては、自分達が住む地域について調べた情報や集めた写真をもとに、360°見渡せる手づくりのウェブ図鑑である「360°図鑑」を作成している。また、中学校においては、ICTとスポーツを融合させた新しい競技をつくるスポーツハッカソンや複数の生徒でチームをつくり、フレットアニメーションの制作などに取り組んできた。これらは、子どもたちの情報活用能力の育成につながるるとともに、特に360°図鑑は、地域の魅力発見という観点から、子供たちだけでなく保護者や地域の方にとっても、地域の魅力を再発見できるコンテンツとなっている。

今後も、①地域の魅力発見、②日常的な授業でのICT活用、③教員の指導力向上の3つの柱のもと、学校の負担にならない、そして、これまであるものにICTを融合させ、融合させることによって学校現場の負担軽減を行うことにもポイントを置きながら、引き続きプロジェクトを進めていきたいとのことであった。

【主な質問事項】

- ・山口情報芸術センターYCAMの位置づけについて
- ・端末にChromebookを選定した理由について
- ・コロナ禍でプロジェクトを推進するに当たって苦労した点について など



調査事項を聴取



施設を視察

3 岡山芸術創造劇場ハレノワ（岡山県岡山市）

【調査事項】

岡山芸術創造劇場「ハレノワ」の整備・活用について

【調査目的】

京都府における文化芸術に関する取組の参考とするため、岡山芸術創造劇場「ハレノワ」の整備・活用について調査する。

【調査内容】

岡山市では、市民に長年親しまれてきた岡山市民会館と市民文化ホールに代わる新しい文化芸術施設として、合併推進債を活用し、岡山芸術創造劇場ハレノワを整備した。岡山市が誇れる舞台・音楽芸術を育み、創り出し、発信させていくための機能を備えるとともに、いつでも誰でも気軽に立ち寄り、憩うことができる機能を備えた施設を目指し、令和5年9月1日に開館する。

管理運営基本計画の策定に当たっては、管理運営基本計画検討懇談会や市民ワークショップ、芸術文化団体へのヒアリングなどが実施され、「魅せる」「集う」「つくる」をコンセプトに、1,735席の大劇場、807席の中劇場、300席の小劇場のほか、本番公演の利用も可能な大練習室（アートサロン）や中小練習室などが整備され、演劇、ダンス、伝統芸能、オペラ、ミュージカル、バレエなどの幅広い公演に対応でき、より大掛かりで新しい舞台演出が可能となっている。また、情報コーナーや展示ギャラリーを設けるなど、来館した誰もが気軽に利用できるオープンロビーを設け、表現や活動の場としてだけでなく、文化芸術を通じて人の交流と出会いが生まれ、街の賑わいを創り出す場を目指している。

また、劇場の貸出しに当たっては、技術スタッフや委託業者が一緒に対応する予定としており、実際に運用する中で、シフトやオペレーションを工夫していきたいとのことであった。

【主な質問事項】

- ・ネーミングライツについて
- ・施設の貸出しについて
- ・岡山市民会館及び岡山市民文化ホールの今後について
- ・オープン後の稼働率や活用の見込みについて など



調査事項を聴取



施設を視察